

平成26年度第5回理事会議事概要

日 時： 平成26年8月7日（木） 16：00～16：45

場 所： 林木育種センター小会議室

出席者： 理事長 鈴木 和夫

理事（企画・総務担当） 鈴木 信哉

理事（研究担当） 大河内 勇

理事（育種事業・森林バイオ担当） 井上 達也

理事（森林業務担当） 城土 裕

監事 滑志田 隆

監事 西田 篤實

総括審議役 肥後 賢輔

総括審議役 飯田 道夫

審議役 安樂 勝彦

企画部長 落合 博貴

1. 開会

2. 議事

本日は議題が1件((1))、報告が6件((2)～(7))となっております。順次、説明をお願いします。

(1) 一般職員の採用(研究・育種分)について

(鈴木理事)

資料Ⅰ－1をご覧ください。前回の理事会でご指摘があり、再検討した結果を再度ご説明します。

採用人数につきましては、いくつかのパターンで検討しました。結果として最低でも5人程度、これに早期退職等を若干名考慮して、今回6名程度としたところです。

採用のスケジュールにつきましては、資料の中の4.にその理由を記載しておりますが、国家公務員等の内定や民間での就職状況等を踏まえて、公募等の開始時期をそれぞれ早めることとしたところです。

なお、育種センターの面接を9月にしているのは、いわゆる国家公務員旧Ⅱ種の採用面接が林野庁で始まっているとのことです。センターのスケジュールも早めたいと考えた次第です。

(理事長)

本件議題については、理事会として了承されました。

(肥後総括審議役)

続いて報告事項に移ります。

(2) 森林農地整備センター職員の募集について

(城土理事)

前回の理事会でもご説明しましたが、国籍条項についてご指摘がありましたので再確認しました。資料Ⅱ-1にありますように、「3 応募条件」を一部修正させていた
だ
きました。

また、「4 選考方法」のうち、(1)の中の「事務能力」を「適性検査」に替えています。これにより、募集を開始しておりますので改めてご報告します。

(3) 森林農地整備センター新規採用者の内定について

(城土理事)

採用の途中経過のご報告です。4月から始めている技術系職員8名を採用することとして作業を進めてきましたが、一次試験を6月28日、二次試験の面接を8月2日に実施しました。内定者8名中、男性が4名、女性が4名です。

国家公務員旧Ⅱ種相当や県職員等の採用との関係がありますので、最終的には9月上旬までには決定し、10月1日には内定を終えたいと考えていますのでご報告します。

(理事長)

8名のうち、大学院卒は何名くらいですか。

(城土理事)

来春の修了見込みを含めて、半分が大学院の修士だったと思います。

(4) 節電対策について

(鈴木理事)

資料Ⅱ－2をご覧ください。まず、電力使用の実績をご覧ください。使用量全体では減っていますが金額は120%となっています。つまり、電力料金単価が25%くらい上がっていることによるものです。

本所の場合、大震災の前に結んでいた長期契約が切れ、新たな契約を結んだわけですが、その単価が値上がりしたという結果です。

このため節電対策を実施する必要があると判断し、支出総点検プロジェクトチームを設置・開催して検討を始めています。

その2回目を31日に開催しました。全ての電気使用機器の調査を実施しましたが、その結果を踏まえて8月4日に各領域長に検討を依頼しています。

台数で3割以上の集約化・廃棄を目標に設定して、古いものから順に廃棄してもらうようお願いしています。

これと同じ調査を支所等でも行っており、支所等でも同じような節電対策に取り組んでもらうようお願いしています。

二つ目が、特殊空調装置の使用状況調査で、電気使用量のかなりの部分を占める特殊空調装置ですが、24時間、温度・湿度を一定量にするため、フル稼働しています。

昼と夜の電気料金が10%くらいしか変わらないので、これによる使用料金が多いのではないかと考えています。そこで、設定温度・湿度が本当に24時間必要なのか、フル稼働しなければならないものなのか、について調査をかけております。

他にもガス代等の削減についても、このプロジェクトチームで調査・分析して、節約の指示を出していきたいと考えています。

(5) 森林国営保険法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係法令の整備等及び経過措置に関する政令案について

(鈴木理事)

森林国営保険法は改正されました。その後に政令・省令の改正が行われるのが通常です。

今回、政令について林野庁のHPに掲載されています。既存政令の廃止から、政令で定めるべき事項の内容が資料Ⅱ－3に列挙されています。

資料の裏面を見ていただくと、現在当政令案がパブリックコメントに付されています。9月3日まで意見をいただいて、その後、施行されることになると思います。

なお、施行期日は来年の4月1日です。法律で森林総研に移管する訳ですので、森林総研の名称が随所に出ております。

これが終わりますと省令の制定に移ることになります。

(6) 小笠原試験地の監査結果について

(西田監事)

7月14日～16日の3日間にわたり、父島の清瀬試験地、コーヒー山試験地と母島の桑の木山共同試験地を対象とした実地監査を実施しました。

14日は父島の清瀬試験地に行き、業務委託をしている野生生物研の安井理事長の案内で、作業室建設の進展状況や苗畑の状況、境界杭の状況等を監査しました。

清瀬試験地の中にある作業道が通学の近道となっており、柵を設けて安全は確保されている状況でしたが、引き続き、落枝などへの安全確保に十分な注意が必要であると思いました。

また、0.9ヘクタール弱の小さい場所でモクマオウの枯死処理も行われていましたが、安全確保という観点から、落枝などに注意すべきと感じました。

苗畑の管理については適切に行われており問題はありませんでした。この試験地は大部分がコーヒー山試験地(9.5ヘクタール)と換地されたため、樹木園のような展示する場所ではなくなっていますが、昔つけた名札が所々に残っており以前の担当者の苦勞が忍ばれました。

グリーンアノールについてはよく目にすることができくらい多く繁殖しているようでした。

15日はコーヒー山試験地の監査を行いました。ここでは、継続研究調査を行っており、また境界杭の確認も業務委託先の野生生物研で毎年確認しているとのことで、適切に試験地が管理されていることが分かりました。

この場所でもアカギの侵入が見られるので、早い時期に適切な伐倒・搬出処理が必要ではないかと感じました。

また、南根腐病が発生している現場と、子実体のサルノコシカケから胞子の飛散状況を調査している現場も見学することができました。何らかの原因で菌が入って定着してきた経緯等について今後の研究の進展に期待したいと思います。

16日は母島に移動して、国有林に設定している桑の木山共同試験地の現地監査を行いました。

母島では、共同試験地のオガサワラグワの植栽試験地、アカギの巻枯らしの状況、除草剤での枯死処理状況、伐倒処理の状況を視察することができました。オガサワラグワの幼樹が無事に成長していることは確認できましたが、一方、急斜面地においてアカギが一斉に生えている箇所については、現状では処理することは難しく、大変苦勞されていることが実感できました。

予定では石門(セモン)地域も調査に入る予定でしたが、雨が強く危険が予想されたため、調査はとりやめました。

以上、現地監査としては保有資産の活用および管理状況が主となりますが、緊急に問題となることはありませんでした。試験地内での安全確保、アカギ、モクマオウの駆除については、今後とも適切な管理を検討されることをお願いします。

また、事前に小笠原に関する研究成果の概要を伺っていたので、小笠原の世界自然遺産保護に向けた森林総研としての貢献についても十分な活動を行っていることが確認できました。今後とも息の長い活動を続けられることを期待します。

(鈴木理事)

報告にありました清瀬試験地内の通学路のことですが、事故があった場合に土地所有者

に責任問題が来るといふ裁判事例もありますので、何らかの地元との協定なり、少し検討した方が良いでしょう。

(大河内理事)

高校生の通学路になっているので、学校と連絡を取ってみる必要があるかと思いますが、施設の管理を担当している研究管理科で検討をお願いしたいと思います。

(肥後)

これにて終了します。

次回の平成26年度第6回理事会は9月4日(木)に開催予定です。

3. 閉会